

政務活動費活動報告（視察）

Google 視察

1. 出席者（会派名・個人名）
 - a. 会派名：志士の会 個人名：北川元気

 2. 実施日：平成 26 年 12 月 12 日（金）15:30～17:00
-

【1. 調査の目的】

1. 本市における現状と課題
 - a. 現在、彦根市では ICT 活用の推進を目的に外部から特別顧問を招いて指導・助言をもらいながら調査研究を進め、9月に立ち上がった IT 課題検討会では若手職員による IT 課題が議論され、その答申が年内に出される予定である。答申をどう活用していけるかが今後の課題である。
 - b. 古いシステムを高額に導入していて無駄が多く非効率であり、庁舎内の電気代の 1/3 がサーバーの電気代となっていて費用対効果は劣悪。
 - c. 専門的知識を有するものが人事異動によって育たず、教育するものがない状態であり、職員の IT リテラシーが低く、ポリシーがしっかりと定められていない。
 - d. 現場の職員が少なく、日々の業務に追われ、緊急を要するもののみ時間を取られ、環境改善や攻めのイノベーションに手が回らない。
 - e. 情報収集・管理・発信が、統一的・計画的に行われないため、場当たりなことしかできず、予算が取れない。結果として無駄なコストがかかっている。
-

【2. 調査地選定理由】

1. 調査項目
 - a. Google のサービスを活用した自治体事例

 2. 選定地
 - a. グーグル株式会社／東京都港区六本木 6-10-1
-

【3. 調査結果】

1. 内容
 - A. Google のサービスは、自治体でも様々なシーンで活用できる
 - a. 教育／Google Apps for Education
 - i. 参考／<https://www.google.co.jp/intx/ja/work/apps/education/>

- ii. 大分県教育委員会／
https://static.googleusercontent.com/media/www.google.com/ja/intl/ja_ALL/enterprise/apps/education/assets/oita.pdf
- b. 病院／Google Apps for Work
 - i. 柏原赤十字病院／<https://www.google.com/intx/ja/work/apps/business/case-studies/case/kaibara-redcrosshospital.html>
- c. 消防・防災／Google Apps for Work
 - i. 唐津市／
<https://drive.google.com/a/google.com/file/d/0B23dRkJbrT1jRmRSVUpTb3d5eG8/edit>
- d. 観光／Google Maps
 - i. Google トレッカー／
<https://www.google.co.jp/intl/ja/maps/about/partners/streetview/trekker/>
- e. ROI／「業務改善効果からコスト削減まで、数字で観る Google Apps 投資対効果」
 - i. https://docs.google.com/a/kitagawagenki.jp/presentation/d/1ns0Wzz_dU2kslIvCAw-O7UOob93O7GCMweiyQHe45A/edit#slide=id.g38f30c3df_01

2. 考察

- a. Google のみならず、あらゆる起業が IT を活用し「はたらく」にイノベーションがおこっている。今回は、自治体に特化した事例を紹介していただいたが、専門性が高く一般の職員では対応しきれないレベルである。外部の専門家を彦根市に招き、本格的な調査研究をしなければ、大した成果にはつながらないのではないか。
- b. 導入までのストーリーとして、やはり政治決断する側の IT リテラシーは欠かせないものであり、ボトムアップ型では難しい。どこの事例もキーマンがいてこそこの成果で、現状の彦根市では特別顧問以外にキーマンとなる人材がいない。執行部に IT の重要性を理解できる人の存在が必要である
- c. Google から、彦根市に来て一緒にプロジェクトチームをつくって研究していきける旨の回答を得た。今後、都筑特別顧問を中心に IT 課題を Google 側と解決していけるのではないかと期待する。

政務活動費活動報告（視察）

ドリームプラン・プレゼンテーション 2014 世界大会

1. 出席者（会派名・個人名）
 - a. 会派名：志士の会 個人名：北川元気

 2. 実施日：平成 26 年 12 月 13 日（土）13:00～18:00
-

【1. 調査の目的】

1. 本市における現状と課題
 - a. 「日本一の福祉モデル都市」を公約に掲げる現在の彦根市だが、市民ニーズの多様化に対し職員のモチベーションはついていけない。
 - b. 職員は失敗することを恐れ、事なかれ行政という環境の中で夢や希望を抱くことができず、どうせ無理だと諦める傾向にある。
 - c. 職員一人ひとりの能力と可能性が発揮されず、依存型の組織となっており、働く環境は改善されず、市民から信頼されているとは言い難い現状である。
-

【2. 調査地選定理由】

1. 調査項目
 - a. すべての人が夢を語り応援し合える自治体（組織）づくり

 2. 選定地
 - a. 東京ドームシティホール／東京都文京区後楽 1-3-61
-

【3. 調査結果】

1. 内容
 - a. ドリームプラン・プレゼンテーション（ドリプラ）とは
 - i. 事業の価値を説明するのではなく、その事業が社会に広まった時、どんなシーンが起こるのかを体験してもらうのがドリームプラン・プレゼンテーションです。プレゼンターは 10 分間という限られた時間の中で、事業の価値、あきらめない理由を伝え、見ている人たちに大きな感動と共感を与えます。その結果、真の支援者を集めることができるようになるのです。

 - b. 大会の 3 大テーマ

- i. ドリームプラン・プレゼンテーションでは【自立・創造】 【相互支援】 【感動・共感】を3つのテーマとしています。誰もがどんな状況でも、夢を描くことができます。皆で助け合えば、感動価値のある素晴らしい事業プランができます。そして感動と共感のプレゼンテーションによって、真の仲間が集まります。それが夢を実現することにつながるのです。
 1. 【自立・創造】 どのような環境・条件の中においても自由に夢を描き、自らの能力と可能性を最大限に発揮して道を切り開き努力に寄ってそれを実現させる
 2. 【相互支援】 他者を支援することで、相互支援の関係を作って経営資源を共有し、自己の限界を突破する
 3. 【感動・共感】 社会に貢献する価値の創造と、夢に挑戦する自らの姿勢を、感動と共感によって伝え、無限の経営資源を集める。

c. 6つの条件

- i. ドリームプラン・プレゼンテーションで発表するプランは、社会に新たな価値と感動を提供するビジネスプランです。それは上記の6つの条件を満たすものです。
 1. 社会的貢献度が炊き事業であること
 2. 独自の価値・魅力があること
 3. 事業として発展性があること
 4. 実現のための準備ができていること
 5. 発表者の人生観とリンクしていること
 6. 人々をワクワクさせること

d. 富山県氷見市の職員「ドリプラ」夢を市民に披露

- i. 2014年11月20日、氷見市では市職員が自分が描く夢を市民に披露する『ドリプラ』が開催された。『ドリプラ』は、夢を実現した青写真を、発表者が10分の制限時間内に披露するもので、人材育成を目的に、全国の企業などで研修として実施されている。20日は5人の氷見市職員がプレゼンし、市民部の職員は、氷見市の限界集落でマンゴーの栽培を6次産業化し、町おこしにつなげるというプランを、集まった大勢の市民の前で発表。氷見市にると自治体が『ドリプラ』を導入するのは、全国で初めてだということで、今後も職員の人材育成に活用していきたいとしている。

2. 考察

- a. ノウハウはすべて無料で公開されていて、全国でも毎年50箇所以上で開催されている「ドリプラ」は、今後の街づくりに新たな価値と感動を与える素晴らしい仕組みである。夢を持ちなさいといくら大人が子どもに教育したところで、大人

が夢を持たずして子どもが夢を持てるはずがない。家庭、学校、地域全体で夢を持ち応援し合える相互支援の彦根の街をつくりたいと思う。

- b. 「ドリプラ」の理念である「すべての人が夢を語り応援し合える社会」には、今の彦根市に足りない「自立型組織」の考え方があり、全国初の氷見市で実現されたプレゼン大会は素晴らしい成果を挙げられていた。ぜひ、彦根市でも自治体ドリプラを開催したい。